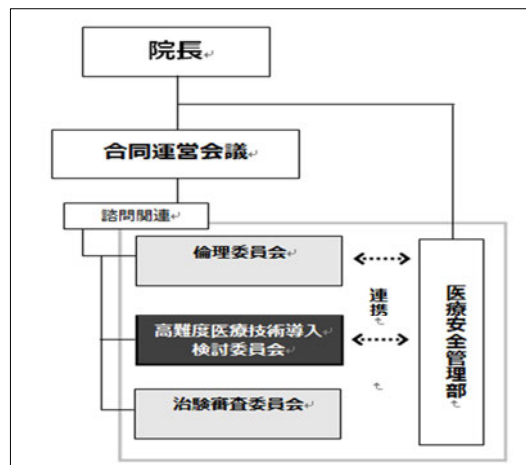


高難度医療技術導入検討委員会

委員長 川井 和哉

概要

高難度医療技術導入検討委員会は2023年度に発足した。院内で高難度医療技術を新規に導入する際、その医療行為が医療安全及び倫理的、社会的配慮の観点から適正であるか審議することを目的とし、病院長、医療安全を担当する医師(外科系1名、内科系1名)、倫理委員会委員長及び各部門の担当で構成される。又、委員長が審査に必要と認めるときは当該診療科又は部署の責任者、当事者および外部の関係者を招聘することができる。原則毎月第3水曜(不定期)開催とするが、必要に応じて臨時に開催することができる。この会は近森病院において以下の組織図に位置付けられる。



活動内容

2025年11月19日に第3回開催。循環器内科より「心房中隔欠損閉鎖術」について審議を行い、承認された。(詳細は以下参照)

【確認事項】(■クリア)

- 当該高難度新規技術に関する安全性の検証や審査
- 当該高難度新規技術の提供に関する倫理的・科学的な妥当性を審査
- 導入する新規医療技術に学会等が定めた指針・ガイドライン等による術者の技量に関する基準がある場合は適合しているか
- 導入する新規医療技術に学会等が定めた指針・ガイドライン等に指導体制の有り方に関する基準がある場合は適合しているか
- 導入する新規医療技術に学会等が定めた指針・ガイドライン等による施設基準や実施基準がある場合は適合しているか
- 新規医療技術であることが同意書や説明書で明確にされているか

【審議結果】プロクリングは5例実施し、経過は良好である。高知県内で治療を受けられることとなり、手技や安全面でも患者へのメリットは大きいと承認。

課題

高難度新規医療技術に関する審議制度について制度の趣旨及び申請対象となる医療技術の考え方について院内周知及び教育の強化を図る必要がある。